

サバイバルゲームとは？

サバイバルゲーム(サバゲー)とは、BB 弾が発射できる「モデルガン」(通称「エアソフトガン」)を使用して、一定の「場所」や「ルール」のもとで、撃ち合って遊ぶゲームです。1970～1980 年代に日本で始まったと言われています。

1980 年代に当時米国で流行っていたペイントボールゲームがありますが、専用の道具を使用したペイントボールゲームではなく、「エアソフトガン」を使用したこの遊びをサバイバルゲームと称しています。

●エアソフトガンとは？

エアソフトガンは、低空気圧又は低圧ガスによってプラスチック製の 6mm や 8mm BB 弾を発射する玩具銃の一種です。準空気銃(圧縮した気体を使用して弾丸を発射する機能を有する銃であって空気銃に該当しないもののうち、内閣府令で定めるところにより測定した弾丸の運動エネルギーの値が、人を傷害し得るものとして内閣府令で定め値以上となるものをいう)に該当しない威力を持っている物です。

●エアソフトガンの法律

エアソフトガンの威力は、法律で上限が設定されています。現在お店で買える国産のエアガンは、すべて法律に適合しています。もし規定値を超えてしまうと、具体的には銃刀法に違反して、モデルガン、エアガンを所持した場合は、1 年以下の懲役又は 30 万円以下の罰金」が科せられますので十分に注意してください。

法律上での規制数値:0.2g の 6mm BB 弾使用時(直径 6mm) 初速 99m/s(0.989J)まで

なお、当フィールドでは

0.2gBB 弾 適正ホップ時 初速 98m/s 以内

0.25gBB 弾 適正ホップ時 初速 88m/s 以内

0.28gBB 弾 適正ホップ時 初速 83m/s 以内

0.3g BB 弾 適正ホップ時 初速 80m/s 以内

で設定しています。他のフィールドや、ゲーム運営者によって、さらに低い上限値が設定される場合がありますので、サバイバルゲームに参加する際は、事前に確認しておく必要があります。

●サバイバルゲームに必要な装備

[必須] エアソフトガン

サバイバルゲームがエアソフトガンを使用する遊びである以上、エアソフトガンが必須です。

※フィールドでレンタルしています

大人税込 1,100 円~/学生 550 円~

※エアガン/赤外線銃/マガジン/バッテリー/ウエア(ポンチョかジャケット)/ゴーグル/フェイスマスク/軍手
BB 弾(約 2,000 発程度)

[必須] ゴーグル

安全にゲームを楽しむためにも、ゴーグルは必須です。後に詳細を書きますが、フェイスガード付きのものを用意すると良いでしょう。

※フィールドでレンタルしています

大人・学生 税込 330 円

[必須] BB 弾

そのフィールドで使用できる種類が決まっています。大きく分けると

大きさ:6mm/8mm

重さ:0.2g~0.12g

材質:バイオ

※大抵のフィールド、銃には、「6mm、0.2g、バイオ、白」の BB 弾を用意すれば問題ありません。

※フィールドで購入する場合は、税込 550 円~です。

[必須] 動きやすい服装

「サバイバルゲーム=ミリタリーファッションを思い浮かべますが、あまりこだわる必要はありません。野山だったり、ホコリのある室内だったりしますので、動きやすく、汚れてもいい格好をしましょう。

できれば、「赤いラインや黄色いライン」などが入っている服は避けてください。これは、チームを分ける際に、赤色、黄色のマーカーをつけてチーム分けをするため、わりにくくなることを避けたいからです。もし、どうしてもそのような服を着る場合は「赤い色の服装なので、赤チームを希望します。」と主催者に言って、チームを調整してもらってください。

靴も、底がしっかりしたものであれば何でも大丈夫です。起伏がある場所も多いので、滑らない靴を用意しましょう。平地だから大丈夫と思っても、BB 弾を踏むと結構滑ります。

ミリタリー柄のレンタルウエアもごございますのでご利用ください。(ポンチョ/ジャケット税込 330 円~)

[オススメ] フェイスマスク

けが防止とコロナウイルス等の感染対策にもつながるため装着をおすすめいたします。レンタルも行っております。(税込 330 円~)

[オススメ] グローブ

正面から撃ちあうことの多いサバイバルゲームでは、手袋をする事をオススメします。指先に当たると、とても痛いです。軍手でもかまいませんし、ワークグローブならホームセンターで購入できます。

※フィールドでは軍手の販売もあります。(税込 330 円~)

[オススメ] ニーパット

膝につけるプロテクターです。サバイバルゲームではとっさに膝をつくことが多いためけが防止のためにお勧めです。

サバイバルゲームのマナー

●ヒットコールは大きい声と大きなアクションで

「ヒット」コールは大きい声で相手に伝えるようにしましょう。銃を降ろして手を振るなど、遠くの人にも伝わるようにしましょう。

●ヒットした後は、フィールドを速やかに離脱する

ヒットされてもフィールドでは戦いが続いています。戦場の邪魔にならないように、急いで離脱してください。

●気遣いや挨拶を忘れない

意図せず至近距離で撃ち込んでしまった場合や、ヒットコールが判らず撃った場合など、「すみません、大丈夫でしたか？」など相手を思いやった声をかけましょう。

●レンタル品は丁寧に大切に扱う

エアガンなどは乱暴に扱えば壊れるものです。扱うことを心がけましょう。

●オーバーキルしない

相手が「ヒット！」と言っているのに気が付かず、『トリガー(引き金)』を引き続けるのはやめましょう。撃ち続けて周りが見えなくなると、自分の場所を敵に教えるだけでなく、敵が接近していることにも気がつきません。

●味方撃ちをしない

相手を確認してから撃つだけで、この味方撃ちはだいが減ります。それでも起こる時は起きてしまいますが、マナーとして気をつけておくだけでだいが違います。

フィールドによって、この味方撃ちは対応が分かります。

撃たれた方がヒット(通常と同じ)

撃った方がヒット扱い、撃たれた方がセーフ

撃った方、撃たれた方両方ヒット

●ブラインドショットの禁止

障害物から手だけ出して撃つことをブラインドショットと言います。相手を見ずに撃つと、オーバーキル(必要以上のダメージ)をしてしまったり、味方を撃ってしまったりします。ちゃんと相手を見て、狙って撃つようにしましょう。

●障害物移動の禁止

フィールドにもよりますが、障害物などのフィールド施設を移動することは禁止されています。バリケード

を動かして自分の使いやすいようにしたりなどはしないようにしましょう。

●相手へ直接触れることの禁止

過去、ナイフアタックという名前で相手に触れたら、触れられた方がヒットになるルールがありました。

しかし、現在は、ほぼありません。相手に触らないようにしてください。相手に触れた場合、両方ヒットになるのが最近の対処の主流です。

●フリーズコールの禁止

相手が気付いていない時、相手の近くで「フリーズ」と言えば、相手はヒット扱い、というルールがありました。これも現在は、ほぼありません。

ただし、相手がまったく気が付かずに 2m ぐらいの距離に近付いてしまうことはあります。その場合は、「相手の痛くない所を撃つ」という対処をすることが最近のルールになっています。

●シューティングレンジ使用時間の確認

サバイバルゲームでは「音」が重要となる場合があります。ゲーム中、早く死んでしまってセーフティエリアに戻った時、時間つぶしや銃の調子を見るために、シューティングレンジ(射撃場)で試射したくなることがあります。しかし、それはフィールド内でゲームをしているプレイヤーには紛らわしい音になってしまう可能性があるため、ゲーム中にシューティングレンジの使用は禁止となっているフィールドが主流です。

ゲーム中にシューティングレンジを使用する際には、フィールドの管理者か、主催者に確認を取るようにしてください。ゲームをやっていない休憩時間の使用は問題ありません。

●トリガーにはゲーム中以外指をかけない

記念撮影や、移動中に、ついトリガーに指をかけてしまいがちですが、指はかけないようにしましょう。マガジンを抜く、セーフティをかける、トリガーに指をかけない。までやっても暴発する危険性があるのがエアソフトガンです。

サバイバルゲームフィールドを利用する際のマナー

●エアソフトガンの取り扱いのマナー

エアソフトガンはむき出しで持ち歩かず、必ずガンケース等に入れて持ち歩くようにしましょう。サバイバルゲーム開始までは、必ずマガジンを外しておきましょう。これは、暴発事故を防ぐためです。また、テーブルの上に置く時は、銃口を他人に向けないようにしましょう。

●服装のマナー

着替えは必ず現地で行い、迷彩服のままで移動したり、コンビニ等に行かないようにしましょう。常に迷彩服を私服で着ているからと言って、それを全員に説明しながら行動はできません。近隣の方が、どういうイメージを持つかが大切です。



●ゲーム後のマナー

BB 弾の袋、飲み物の空き缶など、ゴミはすべて、自分達で始末しましょう。

フィールドの基本ルール

実際にサバイバルゲームを楽しむためには、必ず守らなければならないルールや、マナーがあります。「知らなかった！」では済まされないことばかりですので、マスターしておきましょう。

●ゴーグルの着用

サバイバルゲームは、身体を動かして遊ぶスポーツですので、安全に対する配慮は最も重要です。とくに、BB 弾による失明などという重大な事故を防ぐためにも、サバイバルゲームでは最低限、専用ゴーグルの着用が義務付けられています。なお、フィールドや定例会のルールによっては、安全のために専用ゴーグルにいろいろな制限を付けている場合があります。

例としては

【シューティンググラス禁止】

上下に隙間のできやすいシューティンググラスが禁止のフィールドはかなり多くあります。また、上下に隙間ができなくても脱落防止のバンドがない場合はシューティンググラス扱いになります。

【フルフェイスタイプ必須】(フェイスガード必須)

目だけでなく、口元を覆うタイプが必須のフィールドもあります。

【メッシュタイプ禁止】

透明なタイプではなく、メッシュになっているゴーグルを禁止している所もあります。これは粗悪な BB 弾を使用すると、当たった瞬間に BB 弾が割れてしまい、破片がメッシュをすり抜けて、眼に入ってしまうからです。眼鏡着用の人だけはメッシュを使用しても大丈夫という処置もあります。

どのフィールドでも大丈夫な物は、フェイスガード付きのゴーグルタイプになります。ただし、このタイプのゴーグルは曇りやすいため、曇り止めなどはしっかり準備しておきましょう。どのような場合でも、ゲーム中にゴーグルを外すことは禁止されています。もし、ゲーム中にゴーグルが曇った場合は、ヒット扱い(ヒットの定義は後で明記します)でフィールドを速やかに離脱してください。



●ヒットコール

ヒットは正直に申告しましょう。サバイバルゲームの根本的なルールとして、自分に BB 弾が当たったら自己申告で「ヒット」申告をする、つまり「戦死扱い」になるというものがあります。発射側にこの「ヒット」が判る方法は、基本的にはありません(距離が近いので見えたり、音がするなどでわかることはあります)。

このルールを守らなければ、サバイバルゲームは成立しません。自己申告ですので、基本判定がプレイヤーひとりひとりにゆだねられます。常に正直に申告するようにしましょう。

基本的に、自分が持っている物に BB 弾が当たればヒットです。銃の先、装備品どこに当たってもヒットになります。

例外として、フィールドや開催ゲームイベントにより、銃に当たった場合はヒットにならない。壁に跳ね返った跳弾はヒットにしないなど、ヒットの範囲が設定されていることがあります。ゲーム開始前にルール説明がありますのでしっかり聞いておきましょう。

これを守らない人のことを「ゾンビ」といい、この行為を「ゾンビ行為」と言います。フィールドへの出入り禁止処置などで対処されますので、絶対にやめてください。

●暴言をはかない

相手に対して、例えば「今の当たっただろう!」、「このヤロウ!」などの暴言は禁止です。相手のマナーに不満があるような場合は、相手に直接言わず、主催者やフィールドのスタッフに、早めに告げましょう。

●ヒット後速やかにゲームから離脱する

「ヒット」コールをした時点で、離脱中や、離脱後などに戦場の情報を流すことは禁止です。「ヒット」コールをした場合、フィールド離脱まで何もしゃべらないようにする方が確実です。

●セーフティでは銃に触らない。弾を抜く

最近多くなったルールですが、「ヒット」されてセーフティエリアへと出る際、マガジンを抜くようにしましょう。

また、エアソフトガンは中に 1-3 発弾が残っている事が多いので、フィールドとセーフティの間にある「弾抜き箱」に「マガジンを抜いた状態で、2-3 発空打ちをする」というルールになっています。ただし、ガスガンなど、マガジンが動力になっているものはする必要はありません。

弾抜き後は、銃のセーフティをかけるのを忘れずに。セーフティエリアでは、マガジンを抜いた状態でガンラックに銃を置いてください。セーフティエリアという場所は、みんなゴーグルをつけていない場所なので、エアソフトガンが暴発すると、事故となります。

ヒットされた場合は、

1. ヒットコールすると同時にマガジンを抜く
2. 弾抜き箱に 2-3 発撃つ
3. 銃にセーフティをかける
4. フィールドから出る
5. セーフティエリアのガンラックに銃を置く

という動作が出来るようになると良いでしょう。

逆に、フィールドに入る際には、

1. フィールドに入る
 2. マガジンを入れる
 3. 銃のセーフティを外す
- の順に行います。

なお、セーフティでは、銃の空打ちなどはしないようにしてください。銃の調子が悪い場合などは、シューティングレンジで撃つようにしましょう。シューティングレンジへの出入りは、フィールドの出入りと同じ手順が必要です。

●承諾書の提出

当フィールドの利用にあたっては承諾書へのサイン、提出が必要になります(※18 歳以下の方は保護者のサインが必要になります)。予め N GATEWAY ホームページからダウンロードいただき、記入済みのものをお持ちいただくと当日スムーズです。現地でも用紙のご準備はありますので、当日現地でのご記入も可能です。